パスでつなぐ、あわらの未来

あわら市議会だより

vol.90
2026 autumn
9月定例会

特集

2-3p
・議員定数16人→14人
・政務活動費導入

裏表紙
・議員と語ろう会のご案内



撮影場所：金津小学校

＃未来に残したいあわらの風景

未来への想いをのせて、つなぐ
一つのパス。ゴールをめざして駆ける
こども達の元気な姿と笑顔が、
あわらの明るい未来へつながっていく。
夢に向かって、もっと高く。

photo by tomosaki

第133回　あわら市議会定例会

あわら市議会の議員の定数を定める条例の一部を改正する条例の制定について

議員定数16人➡14人へ

なぜ議論したのか

議員定数については、人口減少や議会機能の維持、多様な市民意見の反映などの観点から見直しの議論が行われました。

提案内容

現在16人→14人へ見直し
※2029年6月予定の
一般選挙から適用

定員の推移

2004年（合併時）：34人
2005年（改選後）：22人
2009年：18人
2021年～現在16人
2029年～14人

採決までの流れ

採決に先立ち、継続審査を求める動議（※引き続き審査をすることを求める提案）が提出されました。



野沢議員

定数削減をゴールにせず、議員の能力を高める仕組みを実際に検討・実施、その結果を踏まえ、1年後に責任ある定数判断を求めた。

継続審査を求める動議【賛成4人／反対11人】

議決結果	表決 賛成	表決 反対	中嶋瑞希	関山耕人	中垣内えり香	野沢裕希	家上雅之	南良一	見澤勇三	三上寛了	青柳篤始	島田俊哉	北浦博憲	堀田あけみ	室谷陽一郎	笹原幸信	北島登	卯目ひろみ
否決	4	11	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	／	×	○	×

※議長（室谷陽一郎）は採決には加わらないので「／」表記

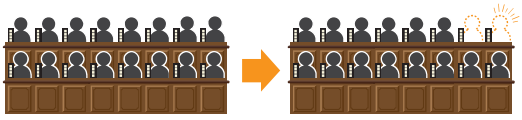
継続審査動議は否決

採決結果【賛成14人／反対1人】

議決結果	表決 賛成	表決 反対	中嶋瑞希	関山耕人	中垣内えり香	野沢裕希	家上雅之	南良一	見澤勇三	三上寛了	青柳篤始	島田俊哉	北浦博憲	堀田あけみ	室谷陽一郎	笹原幸信	北島登	卯目ひろみ
可決	14	1	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	／	○	○	○

※議長（室谷陽一郎）は採決には加わらないので「／」表記

議員定数16人➡14人に削減



議員定数に関する討論

反対

中垣内議員

議員削減は多様な声や市政の監視機能を損なう。
民主主義の根幹を守り、議員がより働き市民の負託に応えるべき。

賛成

北浦議員

議員数に何等かの基準はなく、市の人口、財政状況、民意の反映、議会活動に必要な適正人数を検討し2人削減の改正条例に賛成する。

島田議員

定数削減はゴールではない。議会事務局の充実は不可欠。議員・議会の能力を高め、成果を検証し、市民に示すことまでが責任。

南議員

区長会からの請願は市民のこれまでの議員活動への審判である。真摯に受け止め、今から、議会と議員が覚悟をもって使命を果たすべき。

野沢議員

議員定数の削減は改革の一つに過ぎない。人数が減っても市民の声を届け、議会の機能を維持・向上させる取り組みが重要である。

三上議員

改選前に市民が陳情で求めたことは、議員定数の削減と現状の議会の改革であると理解しているため、賛成。

青柳議員

14人でも議会の働きを維持できると判断。残る3年間で外部の評価も取り入れ、議会全体で仕組みを整える責任を持って賛成。

討論の詳細はYouTube配信をご覧ください　YouTube

第133回　あわら市議会定例会
あわら市議会政務活動費の交付に関する条例の制定について

政務活動費導入



政務活動費とは

政務活動費は、地方自治法に基づき、議員の調査研究、研修、広報広聴などに必要な経費の一部として交付される制度です。議員個人の収入ではなく、使途は条例等で定められ、活動実績に基づいて交付されます。調査研究で得た知識や市民の声を一般質問や政策提言などに生かし、議会機能を高め、市民に成果を還元することが目的です。使途や活動内容等はホームページ等で公開し、透明性と説明責任を確保します。

提案内容

政務活動費交付条例　令和9年4月から導入

- 議員1人当たり年額上限36万円
- 使途限定
- 実績に応じて交付
- 使途全面公開

主な使途　調査研究 / 研修 / 広報広聴 / 資料作成

市民にどう還元するのか

調査研究や広聴で得た知識と市民の声を、一般質問や委員会審査、政策提言に生かします。議会の行政監視力・政策提言力を高め、市民の声をこれまで以上に市政へ反映し、より良い施策や市民サービスにつなげていきます。

採決結果【 賛成11人 / 反対 4人 】

議決結果	表決 賛成	表決 反対	中嶋瑞希	関山耕人	中垣内えり香	野沢裕希	家上雅之	南良一	見澤勇三	三上寛了	青柳篤始	島田俊哉	北浦博憲	堀田あけみ	室谷陽一郎	笹原幸信	北島登	卯目ひろみ
可　決	11	4	○	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	／	○	×	○

※議長（室谷陽一郎）は採決には加わらないので「／」表記

政務活動費に関する討論

反対

北島議員
物価高騰より市民が苦しい時に、政務活動費交付は、反対。採決する議員の任期中で、R9年交付で3年間貰える、正に我田引水。

青柳議員
政務活動費そのものは否定しないが、議会全体で使い道だけでなく成果まで確かめ、市民に示す仕組みが不十分なため反対。

賛成

南議員
福井県9市のうち、政務活動費の支給が定められていないのは本市だけ。現在そして未来の特に若い議員に学ぶ土台を整備してほしい。

島田議員
政務活動費は議員の収入でも定数削減の見返りでもない。削減前から調査研究力を高め、使途と成果を公開し、市民への還元が必要。

三上議員
議員の調査研究を支え、議会の質を高めるため賛成。監査体制を整え、定数削減で議会予算を増やさず実現すべき。

討論の詳細はYouTube配信をご覧ください　YouTube

今後に向けて

今回の2つの条例を可決して終わりではありません。あわら市議会基本条例に基づき、政務活動費を活用した調査研究や研修の成果を議会全体で共有し、市民に分かりやすく発信します。また、14人体制への移行を見据え、委員会活動や広報広聴、議会事務局機能の強化に取り組むなど、市民の負託に応えられる議会づくりを進めていきます。

ダイジェスト

一般質問 QUESTION ANSWER

今回は、10名の議員が行政全般や将来の方針、政策について、市の考えを直接問いただしました。議員一人の質問時間は25分。議員にとっては日頃の課題を調査・研究し、整理した思いを市に問う場であります。議員の質問に対し、市からは真摯な答弁がありました。

スマホで動画が見られる！

各議員の名前横に掲載しているQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと動画の視聴ページをご覧いただけます。

…質問の趣旨　Q…議員の質問
A…市側の回答　…最後に一言



各議員の熱きテーマ



topic 01 高齢者の見守り体制	topic 02 行政改革の視点	topic 03 クマ・鳥獣害対策	topic 04 地域防災力の強化	topic 05 農地排水・ため池
topic 06 観光振興の人材育成	topic 07 生成AIの活用	topic 08 避難所への早急な空調整備	topic 09 タブレット端末の活用	topic 10 子どもクラブでの昼食提供

topic 01

見澤勇三（みさわゆうぞう）議員

YouTube



テーマ 高齢者への見守り体制と終活・成年後見支援の充実について

Q「どこシル伝言板」や「緊急通報体制等整備事業」などの利用状況や効果を踏まえ、今後の改善を図るとともに、地域ぐるみの見守りネットワーク構築に向け、官民連携による見守り体制をどのように強化していくのか。

A安心ネットワーク協力事業者をさらに増やし、日常的に高齢者と接する事業者と、どのように連携を進めていくかについても研究しながら、地域全体で高齢者を見守る体制づくりを進めていく。

Qエンディングノートや「人生会議（ACP）」の普及状況と、高齢者の終活に関する相談支援をどのように充実させていくのか。また、緊急連絡先や医療情報を事前登録する制度の導入について、市の考えを伺う。

A出前講座や地域サロンを活用しながら「終活」に関するツールを紹介し、年齢に関わらず人生を考える機会として捉えてもらい、普及啓発に取り組んでいく。緊急連絡先や医療機関などを事前に登録して管理する制度を導入することについては、整理すべき課題も多いと考えている。

Q成年後見制度の相談件数や利用状況、費用負担の現状を踏まえ、市民後見人の養成・担い手の確保、周知などや相談支援体制の充実、制度の見直しを踏まえた今後の対応について、市の考えを伺う。

A制度利用者数は、令和７年１２月末時点１１８人で、おおむね横ばいで推移している。費用面での不安により制度利用をためらうことがないよう、報酬等の負担が困難で一定の要件を満たす方に対し、申立費用や後見人等への報酬助成をしている。

topic 02

青柳 篤始（あおやぎ あつし）議員



テーマ 市民の困りごとを起点とした行政改革について

人口減少や少子高齢化で職員確保が厳しくなる一方、市民の困りごとは複雑化している。単なるデジタル化ではなく、業務の流れを見直し、市民と向き合う時間を増やす行政改革について問うた。

Q 出生、転入、介護、死亡などのライフイベントでは、複数窓口を回り、同じ情報を何度も記入・説明する負担がある。実際に、家族を亡くした後の手続きで市役所へ4回通ったという声もあった。市民から見れば一つの困りごとである。こうした負担を減らすため、手続きや庁内の情報連携をどう見直し、BPR（業務改革）やAI、データ活用をサービス向上につなげるのか。

A 複数窓口や重複記載など、市民と職員双方に負担があり、改善の余地があると認識している。法令や個人情報保護を前提に、確認手順、情報の受け渡し、入力方法、部署間の情報共有など、業務全体の流れを見直し、行政サービスの向上に努める。AIについては、業務の目的や制度を熟知し、結果を検証できる職員を育成していく。データや根拠に基づく政策立案は、適した業務から取り組む。

行政の目的は手続きを行うことではなく、市民一人ひとりの困りごとを解決することだ。AI、DX、BPRはそのための手段である。限られた人員と財源でも、行政サービスの空白を生まないため、短くできる作業は短くし、その分、現場を見る、人の話を聞く、学ぶ、考える、判断するといった人にしかできない仕事に、より多くの時間を使える市役所を目指してほしい。

topic 03

堀田 あけみ（ほりた）議員



テーマ 市民の安全を守るクマ・鳥獣害対策の充実

クマやニホンジカなどの出没が続く中、市民の生命・身体・財産を守るため、緊急銃猟を担う射手の確保と負担軽減、分かりやすいクマ出没情報の発信、市街地で安全に鳥獣へ対応できる体制の充実について市の考えを問うた。

Q 緊急銃猟を担う射手の確保と育成、射撃訓練への支援をどう考えるか。

A 緊急銃猟に従事可能な銃所持者は金津支部5人、芦原支部4人の計9人で、必要に応じ他支部へ応援要請できる体制を整えている。今後も狩猟免許取得への補助や猟友会と連携した人材育成を進めるとともに、令和9年度から国の補助金を活用し、射撃訓練に係る旅費、弾薬費、射撃場使用料などについて補助を検討する。

Q クマ情報について、危険性や情報の確度が市民や保護者に分かりやすく伝わる発信方法へ改善できないか。

A 迅速な情報発信を基本とするため判断基準そのものを見直す考えはないが、複数の通報があるなど緊急性が高いと考えられるケースについては、危険性が伝わりやすい表現となるよう今シーズン中に改善する。学校ではクマ出没対応マニュアルに基づき、児童生徒の安全を最優先に対応する。

Q 市街地での安全な鳥獣対応のため、ネットランチャーなどの装備と訓練を充実すべきではないか。

A ネットランチャーを有効な装備の一つと捉え、今年度中に導入する予定である。猟友会と連携して操作講習等を実施し、円滑な運用に努める。

topic 04

野沢 裕希（のざわ ゆき）議員



テーマ 自助・共助・公助による地域防災力の強化について

Q 市の備蓄だけですべてを賄うことはできない。家庭備蓄の実態把握や、避難情報と併せて水・食料・常備薬など持参品を知らせること、地域住民が実際に避難所を開設・運営する訓練、車中泊避難者への支援と実車を使った受入訓練を進めてはどうか。

A 避難情報等と併せた持参品の案内を検討する。地域の防災訓練の実態を把握し、具体的な訓練メニューを示して実践的な取組を後押しする。車中泊避難についても運用方法を整理し、車両の受入れや受付など、訓練を通じて実効性を検証していく。

テーマ 光を生かした夜間景観と安心して過ごせる公共空間づくりについて

Q 中学生議会では「道が暗い」との声があった。安全性を確保するとともに、あわら温泉街で培った光のデザインを芦原温泉駅前公園や金津市街地にも生かし、歩きたくなる空間づくりにつなげてはどうか。

A 竹田川の水辺や周辺の景観資源をやさしい灯りで照らし、専門的な知見も取り入れながら、金津の自然・歴史・文化を感じられる夜間景観づくりを進める。

テーマ 修学旅行等における引率教員の費用負担について

Q 修学旅行や校外学習で、引率教員が施設入場料等を自己負担している。公務として必要な経費は公費で負担すべきではないか。

A 引率は児童生徒の安全確保や教育活動に必要な公務であり、教員個人の負担に頼ってきた現状について改善に向けて検討する。自治体負担の対象とする行事や経費、必要額等を整理し、県にも財政支援を要望していく。

topic 05

北浦 博憲（きたうら ひろのり）議員



テーマ 竹田川河川改修と農地排水について

市内南部平坦地の農地は、大雨時には竹田川の水位上昇による冠水の恐れがある。河川改修事業の早期完成と排水不良水田の解消が喫緊の課題である。

Q 竹田川河川改修事業の進捗状況について問う。

A 九頭竜川との合流点から水屋橋の区間では、左岸側の引き堤工事が進められており、角屋地係で約５２０メートルの新たな堤防が整備されている。また、今年度は、竹松橋の架け替えに伴う右岸側取付け道路の用地買収や物件補償が進められる予定である。

Q 排水不良水田の解消について問う。

A 排水不良水田の解消には、田面に滞留する雨水等を効率的に排除する暗渠排水の設置や再整備が有効である。現在実施中の県営ほ場整備事業においても、柿原、新郷下番、重義で暗渠排水の再整備を実施している。

テーマ 農業用ため池の役割について

市内、中山間地の田園風景にある農業用ため池は、地域の先人たちが造成し、古くから農業と暮らしを支え、現代へと脈々と引き継がれている貴重な文化的・歴史的遺産である。

Q 農業用ため池が地域に果たす役割について問う。

A 農業用水の確保に加え、大雨時の洪水調整機能や火災時の消火用水の確保、生物多様性の保全や水辺環境の形成など多面的な機能を有しており、地域の安全、安心や豊かな自然環境の維持に重要な役割を果たしていると考えている。

topic 06

関山 耕人（せきやま こうじん）議員



テーマ 観光振興に関する人材育成と計画改善について

Q 観光振興を担う職員の学習環境は。

A 研修やセミナーへの参加、先進地視察、観光事業者や関係団体との意見交換などを通じて知識や情報の収集に努めている。また、DXによって生み出された時間や人的リソースを、学習や政策研究に充てることも業務の一環として位置づけている。

Q 昨年度の温泉街の社会実験で、どのような成果があったか。

A 来訪者アンケートでは「とても良い」「良い」が8割を超えたほか、15分以上滞在した来訪者は前年同期の約1.9倍となり、温泉街の回遊性や滞在性の向上につながった。一方、消費額については事業前後の定量的な比較・分析は行っておらず、今後データを収集・分析していく。

Q 社会実験で分かった課題は。

A 施設の運営・維持管理、人材確保に加え、回遊や滞在を実際の消費につなげる仕組みづくり、年間を通じた採算性の確保などが課題として明らかになった。

Q 計画の目標が達成できなかった場合はどうするのか。

A 未達の原因を分析した上で、既存施策の見直しや改善を行う。新たな取組が必要と判断した場合には、効果や優先度などを踏まえ、必要に応じて予算措置も検討する。

観光事業は、実施して終わりではない。社会実験で得られたデータや現場の声を次の事業に反映し、「計画・実施・検証・改善」のサイクルを回すことが重要である。限られた財源をより効果的に活用し、温泉街だけでなく市内各地域の観光まちづくりにも成果やノウハウをつなげられるよう、引き続き検証していく。

topic 07

中嶋 瑞希（なかじま みずき）議員



テーマ 教育振興基本計画の実効性と、児童生徒による生成AI活用について

Q 現行計画では、施策と成果指標との関係が不明確なものがある。特に、ICT活用や情報活用能力の成果を直接評価する指標はないが、どう把握してきたのか。また、児童生徒の生成AI活用をどう捉え、次期計画にどう位置づけるのか。

A ICT活用等の成果は全国学力・学習状況調査などで把握している。現行の指標は、基本方針の達成状況を端的に把握する意図で設定したが、後期計画では施策ごとの成果指標を設ける方向で検討する。また、生成AIは重要な教育課題と捉え、利用ルールや指導方法を整えた上で段階的に活用し、次期計画にも情報モラル教育の充実と併せて生成AIの適切な活用を盛り込む予定である。

テーマ 持続可能な地域運営に向けた小規模多機能自治と伴走型地域支援について

Q 小規模多機能自治の検討状況について伺う。また、集落支援員や農村RMO（地域運営組織）の活用など、住民の課題発見や話し合い段階から行政が伴走する仕組みを実現できないか。

A 先進自治体の視察や調査を通じて、地域運営を担う人材や事務機能の確保、地域内の合意形成等が課題であることを確認した。全地域一律ではなく、それぞれの実情に応じた仕組みを検討していく。また、集落支援員制度については、地域と行政をつなぎながら住民主体の活動を支える選択肢の一つとして、先進事例の効果等を調査研究していく。農村RMOについては、今年度から波松地区が県のモデル地に選定され、住民主体による取組が始まることから、県や関係部署と連携し、情報共有や支援に努める。

topic 08

南（みなみ） 良一（りょういち） 議員



テーマ 様々な世代や職域からの声の聴収について

Q 市民が自主的に「まちづくりの探究をしていく」環境の醸成を執行部が仕掛けていただけないか。「市民探究提案型タウンミーティング」の実施についての考えを伺う。

A 「次世代につなぐタウンミーティング」は若年層が気軽に参加できるよう現行通りとし、「市長ふれあいトーク」をはじめとした様々な意見交換の場で、今後も幅広く多様な世代の意見を聴取していく。一方で、市民の継続的・探究的なまちづくり活動は自主的に展開されることが望ましいと考え、支援や啓発のあり方については調査研究を継続していく。

タウンミーティングの締めくくりにおいて、市民の自主的なまちづくり活動を啓発するような言葉がけに努めていただけることについては、ありがたく受け止める。

テーマ 市民の危機管理への行政のかかわり方について

Q 災害が多発する昨今において、指定避難所への空調設備の早急な設置と、各行政区に対する行政からの積極的なプッシュ型支援が必要と考えるが、考えを伺う。

A 今年度設置予定の金津高等学校体育館を除くと、空調未設置の指定避難所は12か所（主に小学校体育館）となる。設置には初期費用や維持管理に多額の財政負担が生じるため、国の支援制度や財政状況を踏まえ、優先順位を考慮してできる限り早急な着工に向けて準備を進める。また、災害に対しては、自助・共助・公助の取り組みを基本としつつ、市からの積極的な働きかけも重要と考える。区長会などを通じて各区に防災体制や備蓄状況の確認を呼びかけるとともに、地域間の連携を促していく。

避難所への空調設備の整備と各行政区との防災体制に関する意思疎通について、強くお願いしたい。

topic 09

中垣内（なかがいち） えり香（か） 議員



テーマ 小中学校におけるタブレット端末の適正な活用と、児童・生徒の健康および持続可能な学習環境の確保について

端末利用が進む中、視力や姿勢の悪化、夜間利用など保護者の不安は大きい。紙と鉛筆の学びや安全管理を問う。

Q 低学年の紙と鉛筆の学びをどう大切にするか。また危険サイト制限や使いすぎを防ぐ手立ては。

A 低学年は紙と鉛筆を基本とし、深く読み書く力を大切にする。タブレット端末からの危険サイトのアクセス制限は、全て一括管理のうえ随時更新している。また、利用時間など家庭でのルール作りを呼びかける。

テーマ HPV（子宮頸がん）ワクチンの情報提供と子宮頸がん検診について

国が勧奨を止めた経緯を踏まえ、副反応等の周知や受けない選択の尊重、早期発見のための検診推進を求める。

Q 副反応リスクや被害救済制度をどう伝えているか。また接種を望まない人への配慮や検診の取り組みは。

A 案内通知時、冊子を同封し、ワクチンや救済制度の情報を周知している。希望しない申出があれば送付しない。また、無料券を発行し、土日の検診や企業での出前検診も行っている。

子どもの健康と確かな学びを守る見守りを求める。ワクチンはリスクも公平に伝え、市民が納得して選べる環境づくりを要望する。

topic 10

島田（しまだ） 俊哉（としや） 議員



テーマ 放課後子どもクラブにおける長期休業期間中の昼食提供について

学校が休みでも、子どもの成長に休みはない。学校給食がない期間にも、子どもの食と安心を途切れさせない。家庭ごとに事情が違うからこそ、「選べる手段を一つ増やす」ことが大切だと考える。

Q 子どもクラブの昼食について、希望する日、希望する児童だけが利用し、昼食の実費は原則として保護者が負担する。保護者が希望日を選んで直接注文し、代金も事業者へ直接支払う方式を検討してはどうか。実施条件が整えば、令和９年夏休みに直営クラブのうち１か所または２か所でモデル的に昼食提供を実施する方向で、検討を進めてはどうか。あわせて経済的な支援を必要とする家庭への負担軽減策を検討する考えはあるか。

A 利用率だけで取組の必要性を判断するのではなく、家庭で用意する弁当と注文による昼食のどちらも選ぶことができる環境を整えることに意義があると考える。芦原子どもクラブでの利用実績や保護者の評価、支援員の負担などを検証し、あわせて、昼食提供事業者との協議を進める。保護者ニーズや直接契約方式など、必要な条件が整えば、令和９年の夏休みに、直営クラブでも、昼食提供をモデル的に実施できないか考えていく。

休み期間中に十分に食べられずに学期明けに痩せて登校してくる。そんな、つらい思いをする子どもを、このあわら市から一人も出したくない。私は、行政の最大の使命は、本当に支援を必要としている市民に支援の手を差し伸べることだと考える。

令和８年９月

定例会を開催しました

８月２８日から４２日間にわたって、９月定例会が開催されました。定例会では、令和７年度各会計決算の認定（８件）や剰余金の処分、令和８年度一般会計・各事業会計補正予算、各種条例の制定・一部改正、工事請負契約の締結など議案２４件を審議。

９月８日、９日には１０人の議員が一般質問を行いました。９月１８日の本会議では補正予算等の先議分が可決され、最終日の１０月８日には各常任委員会での審査結果が報告され、採決の結果、令和７年度決算が認定されたほか、すべての議案が可決されました。

９月定例会の流れ　8.28▶10.8

月　日	会議名・会議内容
8／28(金)	本会議・議案上程　・会期決定
	予算決算常任委員会・予算質疑
9／8(火)・9(水)	本会議・一般質問
9／10(木)	総務厚生常任委員会・議案審査
9／14(月)	産業建設教育常任委員会・議案審査
9／17(木)	予算決算常任委員会
9／18(金)	本会議・採決等
9／24(木)・25(金)	総務厚生常任委員会・決算審査
9／28(月)	総務厚生常任委員会・重点事業審査
9／29(火)・30(水)	産業建設教育常任委員会・決算審査
10／1(木)	産業建設教育常任委員会・重点事業審査
10／7(水)	予算決算常任委員会
10／8(木)	本会議・採決等

令和８年度 一般会計補正予算（第３・４号）成立

総額３億７,８３０万８千円を増額!!

主な歳出予算は、全天候型子どもの遊び場運営管理経費、金津中学校ナイター照明ＬＥＤ化工事、湯～わくstand土地購入費、木造住宅耐震改修促進事業補助金、ふるさと探究プロジェクト事業などが計上されています。

全天候型子どもの遊び場運営管理経費

551万5千円

令和９年３月下旬のオープンに向けて準備が進められている「全天候型子どもの遊び場」について、８年度の開館準備経費に加え、９～１０年度の管理委託料（２カ年総額５,４２３万６千円）の債務負担行為が設定されました。施設は年間５万人の利用と約１,０２９万円の収入を見込んでいます。

金津中学校ナイター照明ＬＥＤ化工事

6,000万円

金津中学校グラウンドのナイター照明をＬＥＤ化する工事費が計上されました。工事はナイター利用の休止期間（11月以降）に合わせて10月から発注し、市民利用に影響が出ないよう進められます。脱炭素推進事業債等の活用により実質的な市負担額は約２,８００万円に抑えられる見込みで、夜間の視認性や環境面の向上が図られます。

湯～わくstand土地購入費

3,329万1千円

あわら湯のまち駅周辺の賑わい拠点「湯～わくstand」の整備に伴う用地取得費が計上されました。

昨年度の実証実験の結果を踏まえ、デザイン会議等で議論を重ねながら、国の補助事業スケジュールに合わせて不動産鑑定評価に基づき適正な価格での取得が進められます。

予算決算常任委員会質疑（予算審査）

自衛消防施設整備事業補助金

補正予算額　１２万３千円

質問 消防ホースについては市が計画的に更新しているのか、それとも地区からの要望に対してのみ補助しているのか。

答弁 地区の自衛消防に関する整備支援であるため、地区からの申請を基本として補助を行っている。

ふるさと探究プロジェクト事業

補正予算額　４９万円

質問 従来の体験学習との違いや事業立ち上げの経緯、児童生徒による学習成果のアウトプット方法はどうか。

答弁 単なる体験にとどまらず、地域課題や魅力を自ら主体的に考え発表する「自分で考える学び」を重視している。各校の実情に応じた成果発表や展示等につなげていく。

生活のしづらさなどに関する調査事業

補正予算額　６万１千円

質問 調査の方法や対象者はどのようになっているのか。

答弁 国から対象地域の指定があり、その地域の中で調査対象となる障がいのある方や指定難病の方がいれば、調査票を配布し回答してもらう方式である。

水道事業・公共下水道事業会計（委員報酬費）

補正予算額　１７万６千円

質問 審議会の設置は、将来的な水道料金や下水道使用料の改定を前提としたものなのか。

答弁 第三者の立場で経営状況や各種計画の進捗管理を点検・審議することが第一の目的であり、料金改定ありきの設置ではない。審議内容はオープンにし市民への周知に努める。

予算決算常任委員会質疑（決算審査）

財政状況

質問 実質収支が大きな黒字となった一方、経常収支比率が94.8%と高く老朽施設の更新も控える中、財政状況をどう捉えているか。

答弁 財政は厳しい状況にある。地方債の繰上償還による将来負担の軽減と、人口減少に応じた施設の規模・配置を予算査定に反映していきたい。

道路異常通報システム「MyCityReport」

質問 令和７年度の通報件数と導入による効果はどうか。

答弁 通報件数は106件で、位置情報や写真により事前の状況把握ができるため、早期発見や被害拡大前の補修、対応の効率化につながっている。

特別支援教育指導員

質問 令和３年度から１名を配置している現行体制が十分か、増員の必要性をどのように認識しているか。

答弁 専門的な立場から児童生徒への支援方法の判断や教員への助言を行い、保護者にとっても専門的な意見を聞ける重要な役割を担っており、現状では１名が適切な配置であると考えている。

一時預かりサポート事業

質問 急な利用にも対応できないか。

答弁 保育士の配置が必要なため前日までの連絡を求めており、当日の利用は難しい。

道の駅「蓮如の里あわら」の運営

質問 指定管理料を除くと赤字となることから、今後の指定管理料の妥当性を判断するため、収益部門と公共部門の収支を分けて検証すべきではないか。

答弁 現在の損益計算書では両部門を区分していないが、指定管理料の積算にあたってはできる限り区分して整理することが望ましいと考えている。令和10年度以降の指定管理者選定に向け、按分すべき部分と明確に分ける部分の整理を行い、適正な指定管理料を改めて検討したい。

森林環境教育事業

質問 子どもたちが森林に触れた体験を郷土への愛着やその後の学びにつなげるため、学校や保護者へのアンケートなどにより事業効果を把握すべきではないか。

答弁 こども園では効果測定が難しい面があるものの、小学校（特に高学年）については効果の把握が可能と考えており、教員への聞き取りなどを行っていきたい。

委員会の詳しい内容は、右記 QR コードから動画の再生リストをご覧ください　YouTube

議案の結果



第133回　あわら市議会定例会
予算・決算の採決で賛否が分かれた議案はありませんでした。

全ての議案一覧はコチラから

New

決算重点審査

重点的に審査したいテーマを選定・深堀りし、議員間での議論を経て、提言へと繋げる新しい取り組みです。

総務厚生分科会

- 地域交通対策事業
- 空家等対策事業

については▶▶▶▶

産業建設教育分科会

- 芦原温泉駅西口賑わい施設「アフレア」
- 部活動地域移行推進事業
- 金津創作の森

については▶▶▶▶

地域交通対策事業

移動を諦める人を生まない仕組みへ

課題・成果

デマンド交通の予約方法の多様化や操作支援、駅のバリアフリー化など、移動の不便を改善する取組を評価しました。一方、運行便数が増えても利用者数や乗合率は低下し経費は増加していることや、予約できなかった人や移動を諦めた人も含めた実態の把握にも課題が残ります。

提言

分科会では、市内の交通資源を整理するよう提言。福祉・教育・観光等との連携や運行方法、予算配分を見直し、移動困難者を生じさせない地域交通を求めました。



空家等対策事業

発生予防から解決まで切れ目なく

課題・成果

市内の空き家は、令和６年度末の693件から令和７年度末には789件へ増加しています。状態別の情報管理や専門家・民間事業者との連携などを評価する一方、相談後の解決状況や利活用後の追跡、困難案件への継続的な対応には課題があります。

提言

分科会では、発生予防から早期把握、利活用、適正管理、除却まで一体的に進めるよう提言。危険度や費用対効果に応じて人員と財源を重点配分するよう求めました。



芦原温泉駅西口賑わい施設「アフレア」

にぎわいを地域の成果へ

課題・成果

アフレアは、イベントや高校生等の日常利用が増え、駅前のにぎわいや交流の場として一定の成果を上げています。一方、市内の飲食・買物・宿泊への波及効果や、市民ニーズの把握には課題が残ります。

提言

分科会では、開業から４年近くが経過した今、施設が地域のために果たす目的と達成すべき成果を明確にし、関係者の役割分担や財源も含め、事業の評価方法と運営のあり方を検討するよう求めました。



部活動地域移行推進事業

安全と学びを地域で支える

課題・成果

全21種目で休日の部活動の地域移行が実施され、生徒の活動機会の確保や教員の時間外勤務の減少などに効果が見られました。一方、学校・運営団体・指導者・保護者の役割や責任、健康情報等の共有方法には課題があります。

提言

分科会では、生徒の安全を確保し、協調性や自主性など学校部活動が担ってきた教育的意義を継承するとともに、生徒の多様な希望に応えられる持続可能な仕組みづくりを求めました。



金津創作の森

芸術文化の価値を地域へ広げる

課題・成果

金津創作の森は、年間13万３千人が利用し、企画展や創作体験などを通じて幅広い世代に芸術文化に触れる機会を提供しています。一方、企画展の集客や情報発信、市の補助等に依存する財源構造には課題があります。

提言

分科会では、自主財源の確保や民間の発想・ノウハウの活用を進め、事業の成果を次の企画に生かすとともに、文化拠点としての価値を観光や地域経済にも広げる運営の検討を求めました。



各委員会の活動報告

議会運営委員会

議員定数削減・政務活動費に関する議論を行いました。詳細は本誌2.3ページをご覧ください！



委員 卯目 ひろみ

広報特別委員会

PICK UPテーマ 「声のお便り」制作への思いを取材しました！

「議会だより」の音声化を通じて、温かい声を届けてくださっている「音訳の会」の皆さん。今回は、日頃の活動への想いや収録の裏側についてお話を伺いました。



主な議論

- 広報・広聴ビジョンについての議論
- 第90号議会だより誌面の協議
- 広報戦略の協議・作成

文字でも、声でも。すべての人に開かれた議会広報を目指します！



委員 中垣内 えり香

←インタビュー記事

YouTube ←声のお便り

議会活性化特別委員会

PICK UPテーマ 市民との対話や広聴機能を充実してまいります！

5月31日(日)アフレアにて、「議員と語ろう会」を開催いたしました。1部は、議会各委員会からの報告、2部は市民のみなさまとの対話会を行いました。内容は以下のQRコードからご覧ください。



皆さまから頂いたご意見・ご提案に真摯に向かい合っていきます。



委員 南 良一



主な議論

- 議員と語ろう会計画(秋開催、団体は随時受付)
- アフレアでの議員と語ろう会の振り返りと次回の計画
- 中学生議会の振り返り
- 高校生議会の検討

↑議員と語ろう会申込ページ

↑議員と語ろう会ホームページ

人口減少対策特別委員会

PICK UPテーマ 現場の声とデータから紐解く、私たちのまちの未来戦略

人口減少に伴って顕在化しつつある問題、例えば農業の後継者問題や財政の縮小、若い女性の市外への流出などについて、少人数でグループを作り、現場の声を聞きに行ったり、データを調べたりして調査を進め、解決の糸口を探っています。

各委員が市内外で調査を行い、委員会内で議論しています！



委員 野沢 裕希

主な議論

- 市役所でのDX・AI活用による業務時間創出の可能性
- 人口が増加している小規模自治体の類型と背景
- 中山間地域における農業衰退とコミュニティの課題に関する考察

防災・減災対策特別委員会

PICK UPテーマ 屋内消火栓の操作を体験

7月23日に嶺北消防組合あわら消防署を訪れ、屋内消火栓の操作を体験しました。また、救急活動や消防車両、災害への備えについて説明を受け、あわら市の安心・安全を守る取組への理解を深めました。さらに、10月2日には、あわら市庁舎内に設置されている屋内消火栓や消火器に不備がないか確認しました。



主な議論

- 自主防災組織の区長アンケート結果の共有
- 防災AX事例の共有
- あわら市の地域防災の課題について
- 支援を支える仕組みづくりの提案
- 個別避難計画の作成・活用の提案
- 市内の備蓄・避難所の調査結果の共有

各委員がテーマに沿って調査・研究を進めています！



委員 島田 俊哉

中学生議会を開催しました!!

～あわらの未来へ、私たちの提案！～

市内の中学生を代表して16人が、実際の本会議場で市の課題について質問し、
森市長が一つひとつ答弁しました。市議会議員は、サポート役として参加しました。






中学生からこんな声がありました！

吹奏楽部の楽器について



古くなった楽器を新しくしてほしい。メンテナンスもお願いしたい。

学校のエアコン整備について



家庭科室や技術室にもエアコンをつけてほしい。

芦原温泉駅前について



駅周辺に本屋やブックカフェなど、本に親しめる場所がほしい。

空き家の活用について



使われていない空き家を、勉強や交流ができる場所にしてほしい。

学校の網戸設置について



虫を気にせず窓を開けられるよう、教室に網戸を設置して欲しい。

中学生の声が実際の議会につながっています。

中学生議会で出された意見は、その場だけで終わっていません。実際の一般質問や委員会でも「中学生議会でもこんな声がありました」と取り上げられ、議論につながっています。中学生の声も、大切な市民の声。議会から、まちづくりへつながっていきます。

Topics

議員と語ろう会のご案内

中学生たちも、あわらの未来を考えています。次は、あなたの番です！
「もっとこうだったらいいのに」「これって、どうなっているの？」
そんな日々の疑問やアイデアを、市議会議員に直接話してみませんか？
子育て、教育、福祉、まちづくり。テーマは自由です。
あなたの声が、あわらの未来を変えるきっかけになるかもしれません。
聞くだけの参加も大歓迎！議員と語ろう会で、お待ちしています。
お好きな会場にお越しください。

11月20日(金) 19:00～20:00
伊井公民館、北潟公民館、湯のまち公民館、坪江公民館

11月21日(土) 19:00～20:00 本荘公民館(18:00～19:00)
IKOSSA、吉崎公民館、細呂木公民館、本荘公民館

「議員と語ろう会」は、政治の知識はいりません。あなたの声を聞かせてください！



12月定例会のお知らせ

会期 12月2日(水)～12月25日(金)

日	月	火	水	木	金	土
		1	2 本会議 予算決算常任委員会 広報特別委員会	3 防災・減災対策特別委員会	4	5
6	7 人口減少対策特別委員会	8	9	10 本会議(一般質問)	11	12
13	14 総務厚生常任委員会	15 総務厚生常任委員会(予備日)	16 産業建設教育常任委員会	17 産業建設教育常任委員会(予備日)	18	19
20	21	22	23	24 予算決算常任委員会	25 本会議(採決等)	26

※日程は都合により変更されることがあります
※傍聴をご希望の方は議会事務局までお問い合わせください



水害のお見舞金

令和８年８月の大雨災害に際し、小浜市議会、敦賀市議会及び若狭地方町村議会から見舞金をいただきました。いただいた見舞金は全額市の災害対応に活用させていただきます。温かいご支援に心より感謝申し上げます。



発行 あわら市議会

［編集］あわら市議会広報特別委員会
〒919-0692 福井県あわら市市姫三丁目1番1号
あわら市議会事務局 TEL.0776-73-8045(直通)

▲市議会HP

本会議をライブ配信しています

パソコン、スマートフォン、タブレットで本会議の様子をみてみませんか？過去の映像など配信しています。

YouTube

ご意見・ご感想をお寄せください

市民のみなさんに親しまれる紙面を目指しています。紙面についてのご意見・ご感想をお寄せください。

▲投稿フォーム